

動薬協会発 54 号
平成25年5月17日

公益社団法人日本動物用医薬品協会
会 員 各 位

公益社団法人日本動物用医薬品協会
理事長 福 井 邦 顯
(公 印 省 略)

北朝鮮及び中国における高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う畜産関係者等
への指導の徹底について

当協会の業務運営につきましては、日頃からご支援、ご協力を頂きお礼申し上げます。
さて、標記のことについて、農林水産省消費・安全局動物衛生課長より通知がありましたのでお知らせします。



25消安第808号
平成25年5月14日

公益社団法人 日本動物用医薬品協会理事長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

北朝鮮及び中国における高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う畜産関係者等
への指導の徹底について

このことについて、別添のとおり各都道府県畜産主務部長宛てに通知しましたので、御
了知の上、円滑な防疫対策の実施につき御協力方お願いいたします。



写

25消安第808号

平成25年5月14日

都道府県畜産主務部長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

北朝鮮及び中国における高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う畜産関係者等への指導の徹底について

平素より家畜衛生の推進に御理解・御協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、今般、北朝鮮当局から、国際獣疫事務局（OIE）に対し、本年4月19日に平壤市のあひる飼養農場において高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）の発生が確認された旨の通報がありました。また、中国当局からは、本年5月13日にチベット自治区の家きん飼養農場において同病の発生が確認された旨の通報がありました。それぞれの詳細は別添のとおりですが、これらの国のみならず、台湾、カンボジア等近隣アジア諸国においては、引き続き本病の発生が確認されているところです。

現在、我が国への北方からの渡り鳥の飛来時期ではありませんが、我が国への本病ウイルスの侵入経路は、渡り鳥だけではなく、人や物を介した侵入の可能性も否定できません。このような状況を踏まえ、水際検疫については、渡航者への注意喚起や入国者への質問、靴底消毒、検疫探知犬等を活用した携帯品検査等を行っているところですが、農場段階においても、引き続き、本病ウイルスの侵入防止に万全を期する必要があります。

つきましては、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」（平成23年10月1日農林水産大臣公表）第2の2に御留意いただき、別添の発生状況地図等を適宜御活用の上、畜産関係者等に対し、近隣諸国における本病の発生状況を周知するとともに、引き続き、緊張感を持って、本病に関する注意喚起及び家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号）第12条の3に基づく飼養衛生管理基準の遵守等について畜産関係者等への指導を徹底していただきますようお願いいたします。

なお、海外における高病原性鳥インフルエンザ等の発生状況等の必要な情報については、今後も当省ホームページ等を通じて積極的に公表してまいりますので、御活用いただきますようお願いいたします。

<農林水産省ホームページ：鳥インフルエンザに関する情報>

URL：<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>

【OIE 情報】 北朝鮮における高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) の発生について

平成 25 年 5 月 14 日
動物衛生課

朝鮮民主主義人民共和国平壤 (ピョンヤン) 市における高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) の発生について、2013年5月13日付けでOIEへ報告 (緊急報告) がありましたのでお知らせします。

なお、北朝鮮と我が国の間には家きん及び家きん肉等に関する家畜衛生条件の締結はなく、輸入停止等の新たな検疫対応はございません。

【出典】

OIEウェブサイト：2013年5月13日付け

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_refer=MapFullEventReport&reportid=13447

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・発生数：1件 (Immediate notification)
- ・発生日：2013年4月19日
- ・確定日：2013年5月2日
- ・OIEへの報告日：2013年5月13日
- ・血清型：H5N1 (高病原性)

【発生状況】

- ・発生場所：平壤市 Tudanアヒル農場

【動物種】	【飼育羽数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
アヒル	164,000				

【疫学情報】

- ・ 2013年4月19日に20ケージ中1ケージのアヒルが臨床所見を示したが、3-4日後回復した。死亡率が増加したため、2013年5月2日にサンプルは中央獣医学ステーションに送付された。
- ・ 合計で、1つの成鳥のケージ、12の肥育のケージ及び7つの子アヒルのケージで感染が認められた。2,000以上の成アヒル、42,000の肥育アヒル及び120,000の20日齢未満の子アヒルが死亡又は淘汰された。

【感染源】

- ・ 不明又は調査中
- ・ 野生種との接触

【対応】

- ・ 淘汰、隔離
- ・ 国内における移動制限
- ・ スクリーニング
- ・ 施設等の消毒実施
- ・ ワクチン接種なし
- ・ 患畜を治療対象としない

【診断】

- ・ 鶏卵接種によるウイルス分離：陽性（確定診断日：2013年5月2日）
- ・ RT-PCR：陽性（確定診断日：2013年5月7日）

【参考情報：北朝鮮における高病原性鳥インフルエンザの発生地図】



【OIE 情報】 中国における高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) の発生について

平成 25 年 5 月 14 日
動物衛生課

中国チベット自治区における高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) の発生について、2013年5月13日付けでOIEへ報告 (緊急報告) がありましたのでお知らせいたします。

なお、同国における直近の高病原性鳥インフルエンザの発生報告は、2012年9月18日付けの広東省における家きんの発生報告 (H5N1、同年9月11日発生) です。

出典 : OIEウェブサイト (2013年5月13日付)

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_refer=MapFullEventReport&reportid=13445

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・ 発生数 : 1件 (Immediate notification)
- ・ 発生日 : 2013年5月13日
- ・ 確定日 : 2013年5月13日
- ・ OIEへの報告日 : 2013年5月13日
- ・ 血清型 : H5N1 (高病原性)

【発生状況】

- ・ 発生場所 : チベット自治区ニンティ地区メンリン県 Qionglin 村

【動物種】	【飼育羽数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
家きん	407	35	35	372	0

* 淘汰 372 羽の内訳は、鶏 341 羽及びガチョウ 31 羽。

【疫学情報】

- ・ 感染源 : 不明または調査中

【対応】

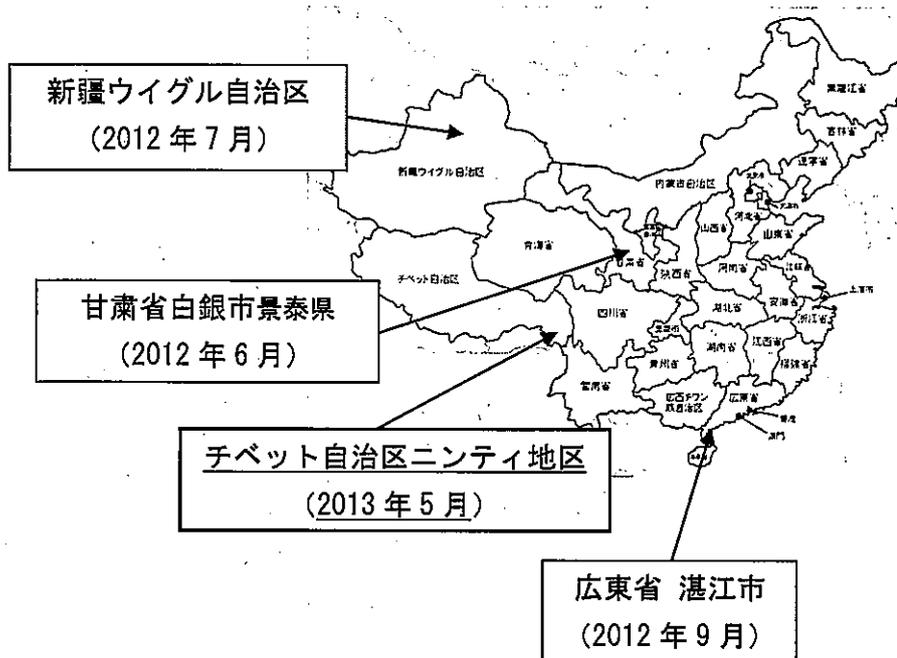
- ・ 淘汰、隔離
- ・ 国内における移動制限
- ・ スクリーニング、ゾーニング
- ・ 施設等の消毒実施
- ・ 化学物質の浸漬、噴霧
- ・ ワクチン接種なし
- ・ 患畜を治療対象としない

【診断】

赤血球凝集抑制試験、RT-PCR、ウイルス分離：いずれも陽性

(確定診断日：いずれも2013年5月13日)

【参考情報：中国における高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) 発生地図 (2012年6月以降)】



高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2012年以降)

高病原性発生地域 =
 低病原性発生地域 =

※1 ()は病原性
 ※2 高病原性・低病原性併発地域は高病原性と表記

《ヨーロッパ》
 イタリア (低) 2012年以降も発生報告あり
 オランダ H5N2(低) 感染確認日:2012.3.17
 H7N7(低) 感染確認日:2012.8.10
 感染確認日:2013.3.12
 感染確認日:2013.3.19
 ドイツ H5(低) 感染確認日:2012.12.20
 アイルランド H5N2(低) 感染確認日:2012.3.29
 デンマーク H7 感染確認日:2013.1.18

《アフリカ》
 エジプト H5N1(高) 2012年以降も継続的に発生
 南アフリカ H7N1(高) 感染確認日:2012.1.9
 H5N2(低) 感染確認日:2012.2.3
 H7N1(低) 感染確認日:2012.6.1
 H5N2(低) 感染確認日:2012.6.29

《西アジア》
 イラク (低) 2012年以降も発生報告あり
 イスラエル H5N1(高) 感染確認日:2012.3.7
 パレスチナ (低) 2012年以降も発生報告あり

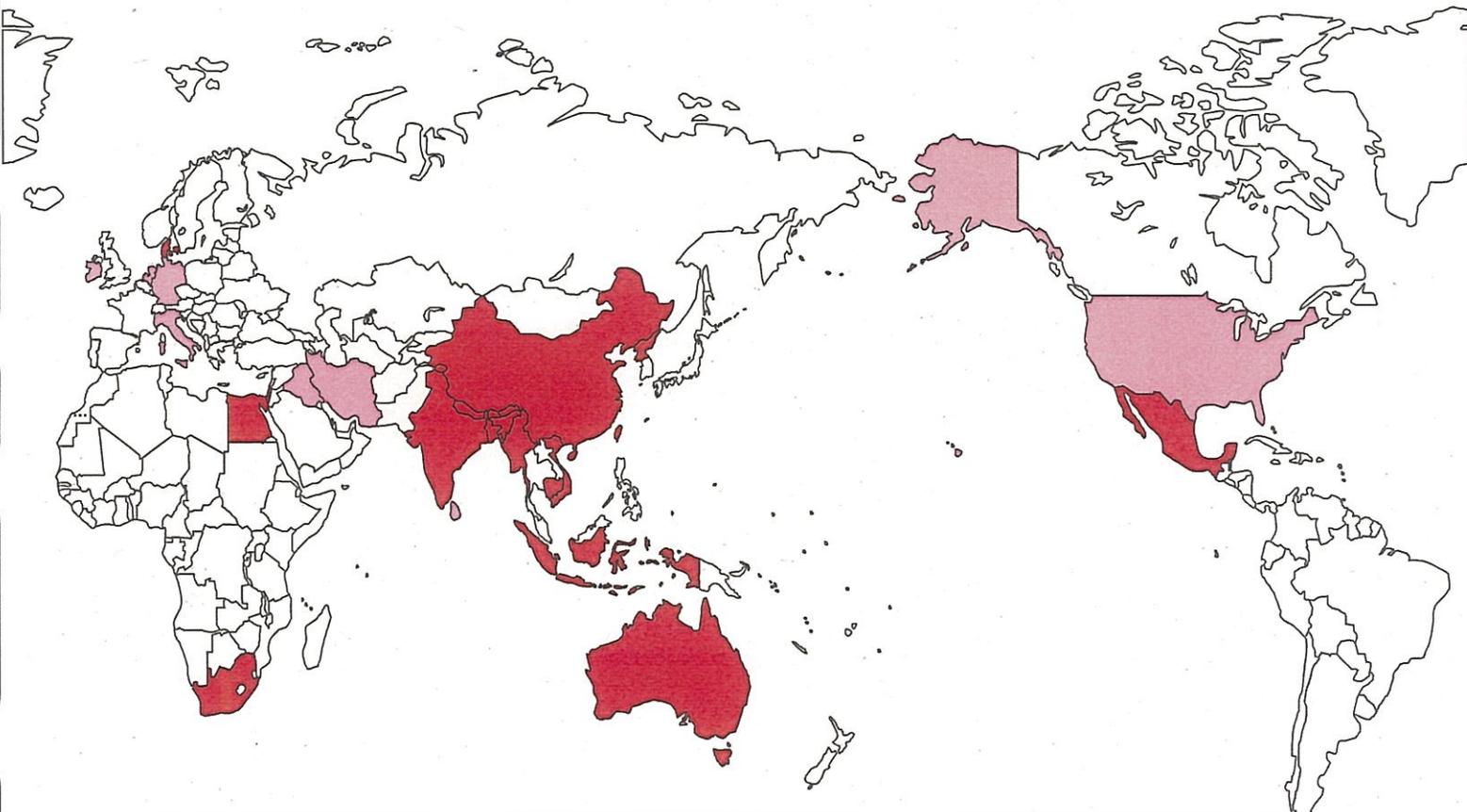
《南アジア》
 インド H5N1(高) 感染確認日:2012.1.10
 感染確認日:2012.10.22
 感染確認日:2013.3.7
 バングラデシュ H5N1(高) 2012年以降も継続的に発生
 イラン (低) 2012年以降も発生報告あり
 ネパール H5N1(高) 感染確認日:2012.9.3
 H5(高) 感染確認日:2012.10.12
 (低) 2012年以降も発生報告あり
 ブータン H5N1(高) 感染確認日:2012.1.8
 スリランカ H5N2(低) 感染確認日:2012.2.2

《東南アジア》
 ベトナム H5N1(高) 2012年以降も継続的に発生
 インドネシア H5N1(高) 2012年以降も継続的に発生
 カンボジア H5N1(高) 感染確認日:2012.5.30
 感染確認日:2013.1.24
 ミャンマー H5N1(高) 感染確認日:2012.2.24

《オセアニア》
 オーストラリア H7N7(高) 感染確認日:2012.11.15
 H5(低) 感染確認日:2013.3.8

《東アジア》
 中国 H5N1(高) 感染確認日:2012.9.18
 感染確認日:2013.5.13
 H7N9(低) 感染確認日:2013.4.4
 香港 H5N1(高) 感染確認日:2013.1.29
 台湾 H5N2(低,高) 感染確認日:2012.1.6
 H5N2(高) 感染確認日:2012.2.13
 H5N2(低) 感染確認日:2012.11.20
 H5N2(高) 感染確認日:2012.11.22
 北朝鮮 H5N1(高) 感染確認日:2013.5.2

《南北アメリカ》
 アメリカ
 ニューヨーク州 H5(低) 感染確認日:2012.1.24
 感染確認日:2013.1.10
 サウスダコタ州 H5N2(低) 感染確認日:2012.2.8
 ペンシルバニア州 H5(低) 感染確認日:2013.2.6
 メキシコ H7N3(高) 感染確認日:2012.6.21
 感染確認日:2013.1.7
 コアウイラ州(含7州) H5N2(低) 2012年1-6月で12件の発生

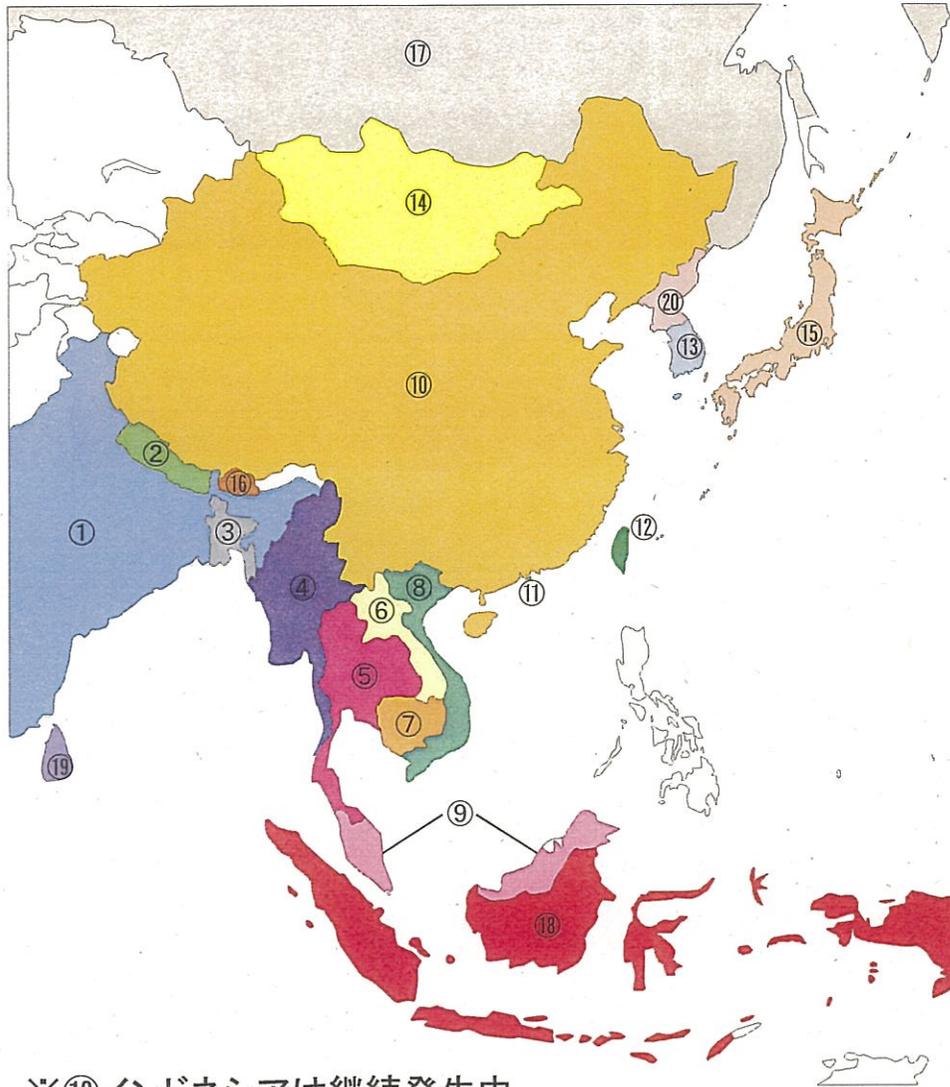


2013年5月13日現在

出典:OIE WAHID 及び FAO等

※1 更新点:北朝鮮における高病原性H5N1の発生(2013年5月2日)、中国における高病原性H5N1の発生(2013年5月13日)
 ※2 本図は発生の有無を示したもので、その後の清浄性確認については記載していない
 ※3 感染確認日は報告の確定診断日に基づく

アジアにおける高病原性及び低病原性 鳥インフルエンザの発生状況



※⑱インドネシアは継続発生中

2013年5月13日現在

出典: OIE WAHID 他

	① インド	② ネパール	③ バングラデシュ	④ ミャンマー	⑤ タイ	⑥ ラオス	⑦ カンボジア	⑧ ベトナム	⑨ マレーシア	⑩ 中国	⑪ 香港	⑫ 台湾	⑬ 韓国	⑭ モンゴル	⑮ 日本	⑯ ブータン	⑰ ロシア	⑱ スリランカ	⑳ 北朝鮮	
2011年	1月		●	●			●	●			▲		●		▲					
	2月	●	●	●				●			●		●		▲					
	3月	●	●	●				●			●	●	●		▲					
	4月		●					●					●		▲					
	5月		●					●				●								
	6月			●									●							
	7月						▲	●												
	8月	●		●			▲	●												
	9月	●		●																
	10月	▲						●												
	11月		●	●			●					●	●			▲				
	12月			●							●	▲							●	
2012年	1月	▲	▲	●				●			▲	●						●	●	
	2月	●	●	●				●			▲	●	●		▲			●		
	3月	●	●	●	●					●	▲	●	●					●		
	4月	●		●						●	▲	●	●							
	5月						●					●								
	6月									●	▲									
	7月							●			●									
	8月		●					●			●									
	9月							●			●									
	10月	●	●	●				●										●		
	11月											●	●							
	12月		●	●								●	●					●		
'13年	1月		●				●				▲									
	2月	●	●	●			●													
	3月		●	●																
	4月									●									●	
	5月									●	●									

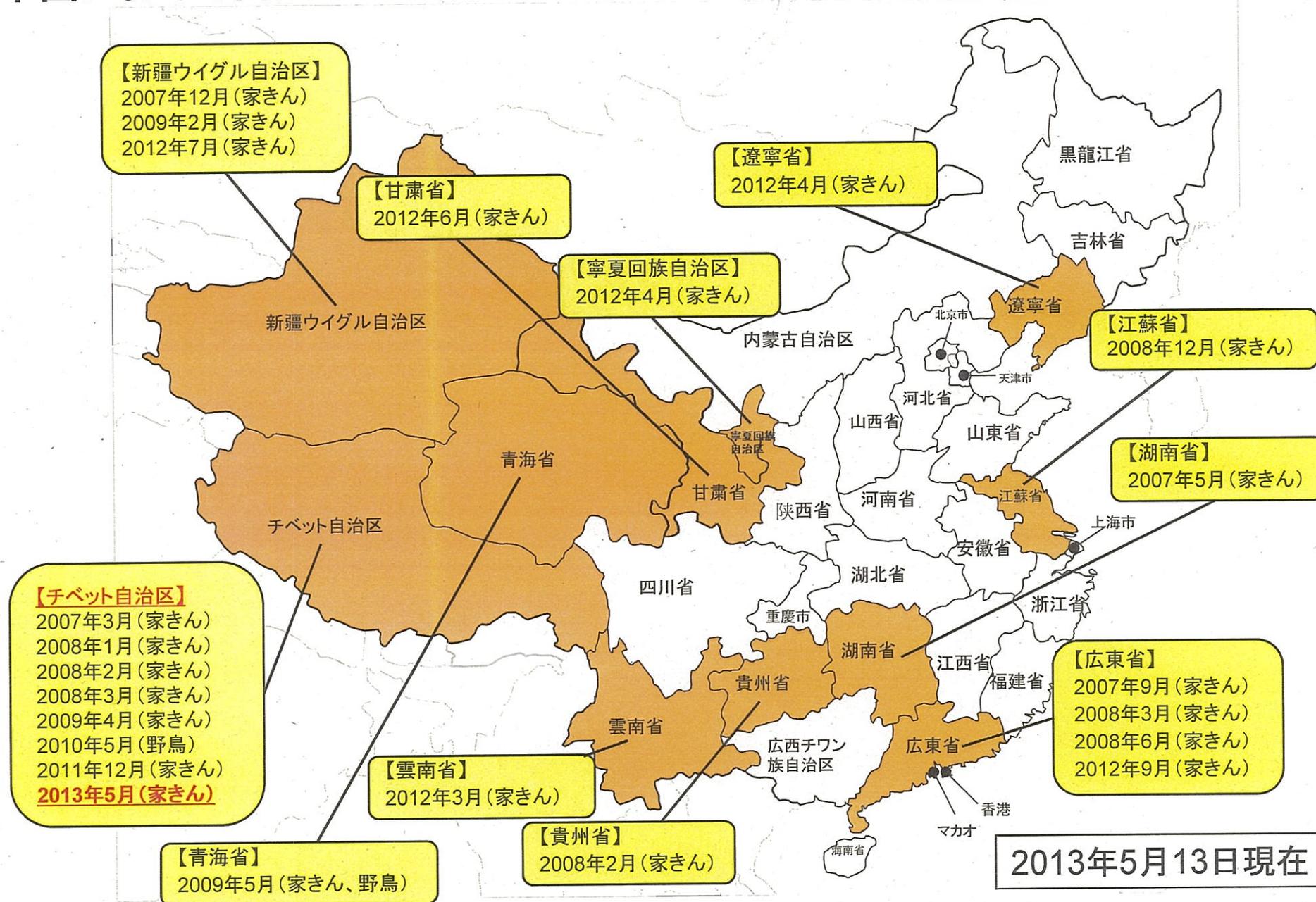
(発生日、検体回収日に基づく)

*)環境由来サンプル

家きん● 野鳥▲ (赤:高病原性鳥インフルエンザ、黒:低病原性鳥インフルエンザ)

※ 野鳥の低病原性鳥インフルエンザについては確認可能な日本のみ記載

中国における高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)の発生状況(2007年1月～)



※出典:OIE他